

## 第5学年「体育」学習指導案

授業者 神谷 潤

2月22日（金）1階体育館 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

### 1 単元名 遊びこむ

#### 2 単元について

本単元は、遊びこむこと、そして、遊びこむことで自分の身体を育むことを目指した学びの時間である。子どもたち一人ひとりが、ただ遊ぶのではなく、夢中になってその遊びの世界に没入し、深みにはまって「遊びこむ」ことを大切にしたい。

本来、「遊びこむ」とは、幼児期の保育の世界で用いられることの多い言語である。学童期前の子どもたちの育ちにおいて、五感を使って環境とかかわり、おもしろさや魅力にふれたり問いをもったりして、納得するまで遊びこむ過程に学びが大切であると。しかし、それは、幼児期の子どもだけの特権として学童期と分断されるものであってはならないのではないだろうか。遊び（にのめり）こむことで、子どもは世界とのつながりを深め、何かを探求し続け、経験から学ぶのであって、じっくり時間をかけて対象とかかわっていくことは小学生の子どもにとっても重要な営みであると考ええる。

また、遊びこんで運動することは、運動する身体を育てることに有効に機能する。そして、他人も遊んでおもしろいかどうかを凶ることも、他者を通して自分を知ることや自分と他者との違いを知って共生する感覚を得ることにつながると考える。

今回は、モノとのかかわりから、自分（たち）で運動する遊びをつくるというところから始めたい。モノに誘われて、自分がしてみたい運動を追求することで、自分（たち）の遊びとなっていくと考えるからである。子どもたち一人ひとりが自分のしたいことにじっくり浸ることを大切に、個々の自分で自分を育てるプロセスを見守っていききたい。

遊びこむためには、教師のかかわりも重要な役割を果たすと考える。子どもが遊びを創り出したいと思えるような環境デザインが必要であるし、子どもの遊びをおもしろがり、より遊びを遊びこむことへと誘うかかわりも大切となるだろう。また、他者との共生を意識して、個々の自由が尊重される空間を演出することも重要になってくると考える。いかに、子どもの遊びに身体を傾け、全身で子どもの遊びこむを支えていけるか、という私の挑戦でもある。本単元を通じて、自身の身体を問い、「子どもとともに」の意味を考えたい。

#### 3 学習指導計画（本時9時間目／全12時間）

- 他者やモノと対話し、遊びをつくる。
- つくった遊びを、自分で遊びこむ。
- 自分のつくった遊びのおもしろさや魅力を友達に伝え、一緒に遊ぶ。

#### 4 本時の学習について

##### （1）本時のねらい

他者への配慮を心がけながら、自分のつくった遊びに夢中になって取り組む。

##### （2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時までの活動を振り返り、自分の遊びを始める。	・一人ひとりの発話が、どのような意味をもつか、それぞれの違いは何かを聴き取るように留意する。 ・子どもたちが互いの違いについて、または自分のことについて語ったことを整理する。
2 友達と自分のつくった遊びに取り組み、改良を加える。	
3 今日の活動を振り返る。	

#### □協議会で話題にしたいこと

子どもの「遊びこむ」意味とそれを生み出す教師の役割。探求する子どもの見とりについて。